



Contents

- 2.....農業委員・最適化推進委員募集
- 3.....Agri Interview、Topics
- 4.....農地パトロール結団式、前期農業者年金研修会
- 5.....農地流動化情報、農業者年金
- 6.....地区だより、今号の表紙から

農業委員・農地利用最適化推進委員を募集します!

募集期間 令和8年11月2日(月)～12月18日(金) 消印有効

※推薦書、応募書は期間内必着

募集人数 農業委員 **24人**
農地利用最適化推進委員 **32人** (担当地区別に定数を設けています)

任期 令和9年7月8日～令和12年7月7日

応募方法 『推薦』と『自らの応募』の2通りの応募方法があります。

応募方法の詳細については、「募集要項」をご覧ください。

募集要項は、募集開始の11月以降に、農業委員会及び各支所の窓口で配布を予定しています。いわき市のホームページ上にも情報を掲載する予定ですので、募集開始になりましたら、様式等をダウンロードし、ご使用ください。

主な職務内容

農業委員

農業委員会の会議に出席し、農地法や他の法令に基づく農地の権利に係る許可等に関して、審議、判断を行います。



農地利用最適化推進委員

現場活動を主に、担当する区域において、※農地等の利用の最適化を推進するための活動を行います。



連携して活動します

※「農地等の利用の最適化」とは、担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進を行うための活動です。

お問い合わせ先

◇農業委員の募集に関すること

農林水産部 農業政策課
いわき市平字梅本21(市役所本庁舎4階)
TEL 0246(22)7471

◇農地利用最適化推進委員の募集に関すること

農業委員会事務局 農政振興係
いわき市平字堂根町4-8(東分庁舎5階)
TEL 0246(22)7534



Agri Interview

アグリインタビュー

地域の担い手として
いちじくの栽培に取り組む

平下大越

木田 一郎さん親子

この記事をご覧の皆様は、果物のいちじくは知っているとありますが、今回の取材では、平下大越の株式会社ファームKを営み、そのいちじくを栽培されている、木田一郎さん親子を訪ねました。

現在、株式会社ファームKは、いちじく60aを始めとして、水稲35ha、ネギ約20a等を作付けしております。木田さんはこの地区の基盤整備で圃場が広くなり、息子さん二人が農業をやってもいいよと言ってくれたので、平成30年に会社を興しました。

そのころ、県いわき農林事務所からの勧めもあり、いちじくの栽培を開始しました。いちじくは水はけが良くないと栽培がうまくいきません。基盤整備後の畑は水はけが悪く、深く掘り起こしをしたりして対策をしました。が、地下水の位置も非常に浅く、大変苦労したとのことです。

栽培しているいちじくは、主に加工用で、出荷先は農協です。いちじくの収穫と出荷作業は稲刈りと重なってしまします。そこで大活躍してくれるのが近所の御婦人方です。早朝から収穫・袋詰め作業を行う彼女らは、間違いなく大きな戦力です。

また、ネギは冬期の収入対策で始めましたが、手間がかかるので作付面積の拡大は困難だそうです。

圃場の周辺には未利用の畑が多く見られますが、いずれも高齢のため、作付けがむずかしいでしょう。

この地域も高齢化が進んでおり、株式会社ファームKとしては地域の担い手として、今後数多くの農地を委託され、耕作面積は拡大していくと考えているようです。末永く地域の農業を守っていただければ幸いです。

(撮影・執筆 四家 誠)

Topics

令和の米騒動から見える未来

令和の米騒動から2年。当時は「米が足りない」「店頭から米が消える」と大きな話題になりました。しかし現在は、その反動ともいえる局面を迎えています。昨年からの生産量が回復し、今年は供給増による米価下落が懸念されています。しかし、米が余るからといって農家経営が楽になるわけではありません。肥料や農薬、農業機械、燃料費などの生産コストは依然として高い水準にあり、米価が下落すれば経営への影響は避けられません。特に小規模農家や高齢農家にとっては深刻な問題であり、「今年で農業を終わりにしよう」と離農を考える声も聞かれるようになっていきます。

もし離農が加速すれば、これまで地域の農地を支えてきた担い手が減少し、耕作放棄地の増加や農村コミュニティの衰退につながる可能性があります。そして数年後には、生産量そのものが減少し、再び米不足や価格高騰を招くことも考えられます。

つまり、現在の米価下落と将来の米不足は決して無関係ではなく、同じ課題の延長線上にあると言えるでしょう。

令和の米騒動が私たちに教えてくれたのは、「米は当たり前にあるものではない」という現実です。だからこそ、これからの米農家には、ただ多く作るだけでなく、消費者に選ばれる米づくりやブランド化、直販、生産コストの削減など、新たな挑戦が求められています。また、地域全体で農地を守り、担い手への農地集積・集約を進めていく取り組みも欠かせません。

農業は自然との戦いであり、次の世代へつなぐための営みでもあります。目先の米価だけにとらわれるのではなく、食料安全保障や地域農業の未来という視点を持ちながら、持続可能な農業の在り方を考えていくことが、今まさに求められているのではないのでしょうか。

(撮影・執筆 鈴木忠光)



令和8年度いわき市農業委員会 農地パトロール結団式を開催 しました。

令和8年7月22日（水）、農地パトロールを実施するにあたり、市文化センターにおいて結団式を開催しました。

このパトロールは例年8月から11月を農地パトロール強化月間として、農業委員と農地利用最適化推進委員、事務局職員が、①地域の農地利用の確認、②遊休農地の実態把握と発生防止・解消、③違反転用の発生防止・早期発見を目的に現地調査を実施するものです。

また、広報車や市ホームページ等の広報活動を通じて、市民への法制度の普及啓発を図ります。



蛭田金治農地利用最適化推進委員による決意表明



蛭田元起農業委員会会長の激励のことば



結団式では、蛭田元起農業委員会会長の激励を受けたのち、パトロールを行う農業委員・農地利用最適化推進委員を代表して、蛭田金治農地利用最適化推進委員（勿来）が決意表明を行いました。

令和8年度前期農業者年金 加入推進活動に係る研修会を 開催しました。

令和8年7月22日（水）に開催された、いわき市農業委員会第6回全員協議会において、一般社団法人福島県農業会議担い手・経営対策部長 鈴木正弘氏をお招きし、農業者年金について研修会を開催致しました。

農業者年金制度は「農業者の老後生活の安定及び福祉の向上と農業者の確保に資すること」を目的とする公的な年金で、農業者に広く門戸が開かれた制度です。

本研修会において、農業委員及び農地利用最適化推進委員の農業者年金制度に関する理解を深めることができました。



一般社団法人福島県農業会議担い手・経営対策部長
鈴木正弘氏



農地流動化情報

Vol.69

農業委員会では、耕作を目的とする農地情報の収集・提供を行っています。売買・貸借等の意向がある方は、是非ご相談下さい。



◎ご覧になって、手続き等の詳細を知りたいという方は、農業委員会事務局までお問い合わせください。10月1日(木)8時30分から受付開始します。

お問い合わせ先 農地調査係 ☎0246-22-7574

売りたい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平神谷作字寺前 外1筆 2筆	田	22.77

貸したい

No.	農地の所在地	地目	面積(a)
1	平神谷作字寺前 外1筆 2筆	田	22.77

ご存じですか？

メリットが多い制度です

農業者年金

農業者の方は、国民年金の上乗せの公的な年金「農業者年金」に加入して安心で豊かな老後を！

【農業者年金の特徴】

- ①農業だけが加入できる国民年金の上乗せの公的年金です。
- ②少子高齢時代に強い積立方式・確定拠出型です。
- ③保険料は自分で決められ、いつでも見直しできます。
(2万円～6万7千円の範囲内から千円単位)
- ④終身年金です。80歳前にお亡くなりになった場合、死亡一時金があります。
- ⑤任意脱退が可能です。脱退一時金はありません。
- ⑥保険料は全額社会保険料控除の対象、年金資産の運用益の非課税です。
- ⑦支払った保険料は、加入期間に応じ、任意脱退しても将来支給できる年金額に反映されます。
- ⑧加入後は、国民年金の付加年金(月額400円)に加入していただく必要があります。

農業者年金基金の
シミュレーターで
受け取り年金額を
試算ができます！

詳しくは…

農業者年金基金
ホームページ



<https://www.nounen.go.jp/>

農業者年金基金

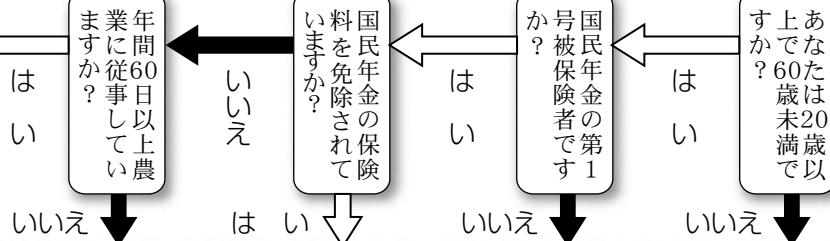
検索

○加入しているかどうか
問わず、制度や手続きに
ついて、専門相談員に質
問や相談ができます。

専門相談員
03-3502-3199

※平日午前9時から午後5時まで

農業者年金に
加入できます！



農業者年金に加入できません

お問い合わせ先 農政振興係 ☎0246-22-7534

伝統の例大祭「山田奴」を 奉納・披露

やまだやっこ

当日、奴の行列は諏訪、月山並びに北野の各神社からそれぞれに出発しました。

神輿や笛太鼓の音色とともに練り歩きながら、途中で合流し、神事で神輿を清めました。

「山田奴」は、大名行列を模した神輿行列（奴踊り）で、家内安全や五穀豊穡、地区の繁栄を願い、江戸時代の文化11年（1814年）から始まったと伝えられています。

山田町にある、諏訪、月山、北野の3神社の大例祭、「山田奴」が奉納・披露されました。本来は7年に一度（数え年、実際は6年ごと）に開催される貴重な例大祭ですが、新型コロナウイルスの影響で延期を余儀なくされたため、2026年4月5日、12年ぶりに奉納・披露することとなりました。

また、法被姿の若衆は、大傘、長柄などの道具を持って「どっこいなーのな」の掛け声に合わせて舞を奉納するなど、住民に受け継がれてきた風物詩が、多くの見物客を魅了していました。



編集後記

この冊子が発行される頃、2026年産米はいくらで取引されているでしょう？2025年秋の米価高騰の後、今年の夏になり在庫がだぶついているとの報道が。「それなら去年放出した備蓄米の分を、政府でまた買い取れば済む話では？」そう思ったのはきっと私だけではないはず。

実は2028年度の本格運用を目指して「民間備蓄制度」が始まるそうです。それに伴い政府で備蓄米として買い入れる2026年産米は、2025年に放出した量の約1/4にとどまったそうです。生産者が減り続けているなかで、いつまた米不足が生じないとも限りません。令和の米騒動、その後の報道にも注視していきたいです。

（執筆：菅野綾）

編集委員

鈴木義直委員長・菅野綾副委員長
四家 誠・鈴木忠光・木村義昭
新妻吉人・油座盛明

今号の表紙から

田植えから約4か月。表紙の写真は、昨秋、稲刈り体験をした市立平第四小学校5年生の児童たちです。学習田は、小川江筋取水口（小川関場地）から約5km南下した平浄水場（平下平窪）の西隣りにあり、面積は5アール。5月に田植えした苗（マンゲツモチ）は、順調に生育し6月に行った田んぼの生き物調査のときには、苗の成長の早さに驚いていました。

当日は、天気にも恵まれ清々しい秋風が吹く最高の稲刈り

日中で、児童たちは、1人1丁ずつ鎌を持って地元の米農家に教わりながら黄金色に輝く稲を丁寧に取り取りました。手刈りの後は、機械での収穫作業を見学し、コンバインに稲穂が吸い込まれていく様子を興味深く見つめていました。

これからは、食の大切さや農業の大変さや楽しさを経験し農業への関心を高めて欲しいと思います。

（執筆 鈴木義直）

